

Q29

## 抗がん剤治療は 腎臓に悪い影響がありますか？

腎臓はさまざまな薬剤を尿中に捨てる働きをしています。抗がん剤は肝臓で代謝され、腸へと送られるものと腎臓でろ過され排泄されるものがあります。抗がん剤治療を受けている患者さんの多くは抗がん剤の投与を受けるばかりではなく、抗生物質や免疫抑制剤など様々な薬剤を同時に投与されていることが少なくありません。このため腎機能障害は比較的好くみられる副作用です。ただ透析が必要になるまで悪化することはめったにありません。血液検査を行うことで、症状として出現する前にそれを予知することに努めています。そしてこの検査データをもとに投与量を変更したり薬の種類を変更したりして対応することで、改善が得られることが多いのです。

腎障害をきたす代表的な抗がん剤には、シスプラチン（商品名シスプラチン・ランダ）、メトトレキサート（商品名メソトレキセート）、シクロホスファミド（商品名エンドキサン）やイホスファミド（商品名イホマイド）があります。予防方法として、たっぷり輸液してたくさんおしっこを出してもらいます。このためこういった抗がん剤を使用するときは、点滴をたくさんすることによって腎臓から膀胱に

はできるだけ濃度の薄くなった抗がん剤が通っていくようにしています。したがっておしっこの回数が増えるため、なんどもトイレに行く必要があります。

また抗がん剤の投与が始まると一気に腫瘍細胞が死にはじめ、死んだ細胞から大量の尿酸の原料が放出されます。放っておくと血液中の尿酸値が非常に高くなります。尿酸はおしっこで体の外に捨てるのですが、なかなかおしっこに溶けにくい性質があります。このため大量の尿酸ができると腎臓で結晶化し、腎臓の機能を悪化させます。この腫瘍細胞が死ぬことで起こる腎障害（高尿酸血症による腎障害）を予防する方法として、治療開始前から、尿酸の産生を抑制するアロプリノール（商品名アロプリノール・ザイロリック）やフェブキシostat（商品名フェブリク）を内服したり、尿酸を分解するラスプリカーゼ（商品名ラステリック）を注射することがあります。尿酸はアルカリ性の尿にたくさん溶けるので、尿酸をたくさん体外に捨てるために、尿のアルカリ化を目的にメイロン（商品名）などが投与されることがあります。もちろんおしっこをたくさん出すことが大切ですから、たっぷりと点滴して、どんどんおしっこをしてもらいます。

（緒方正輝）